

週刊 座、グレート・リーダーズ通信

『インド私録-思い切り取り組んだこの50年-』No.2

ご意見・ご感想は rnm@radio-new-mumbai.com今週のキーワード！ チリヤーガル
そんな意味はない?! 喧々諤々

武藤氏が大阪心齋橋で出会ったインド人船員が尋ねた「チリヤーガル・カハン・へ?」。チリヤーガルというのは、インド語で動物園という意味ですが、インド人船員はこのチリヤーガルという言葉で「遊郭はどこか」とほめかしたのです。しかし、武藤氏は文字通り「動物園」という意味にしかとれず、かくして両者の会話は「落語のように食い違い」、業を煮やした船員がとうとう種明かしをする。そして若き武藤氏が怒りだし……。

このチリヤーガルについては、半世紀もの時を隔ててもう一つのエピソードを生みました。

武藤氏が、ヒンディー語を勉強するために集めた資料は、1950年代のヒンディー語の貴重な出版物群として大阪外国語大学に「武藤文庫」として納められます。後に武藤文庫の目録贈呈式が同大で行われた際、武藤氏がスピーチでこのエピソードを披露したところ、式典に出席していたヒンディー語の学者やインド人学者から、「チリヤーガルにそんな意味があるのか?」という声があがったそうです。

確かに辞書にはそのような意味はなく、しかし、船員が「遊郭」の意味で使ったのは事実でした。その時一緒にいた金森氏も確かにそうだったと言います。だとしたらどうということなのか? 喧々諤々たる議論の末、要するにチリヤーガルは「港に云々」という船員ならではの隠語であり、隠語は属する集団、階層によって違うということに落ち着いたということです。

それから、本では「チリヤーガル・カハン・ハイ?」と書かれていますが、この文末は字読むときは「へ」という発音になります。

絶版、『インド私録』

ラジオ・ニュームンバイで販売決定!

嬉しいことに、「座、グレート・リーダーズ」にもリスナーの皆様から感想が届くようになりました。中には『インド私録』を購入したというメールも。

『インド私録』はすでに発売から7年。一般書店ではなかなか手に入りません。この方も、入手に苦労されたことでしょう。と、この記事を読んだ、ラジオ・ニュームンバイに一本の電話が。『インド私録』を出版したシャンティ出版を経営する帯広の東北海道商事の越前氏でした。な

んと在庫をご提供いただけるとの有り難いご連絡だったのです。

そこで、ラジオ・ニュームンバイでは早速、『インド私録』を販売することにいたしました。『インド私録』ご購入希望の方は、rnm@radio-new-mumbai.comまでご連絡ください。ご希望の方には著者のサインもお入れしますよ。

こぼれ話

第1回収録



5月20日、「座、グレート・リーダーズ」の第1回収録が、ここ「ニュームンバイ市」にあるラジオ・ニュームンバイ・スタジオで行われました(写真)。

スタッフ2名が段取りや機器の操作に右往左往し、インタビューの白水氏(写真左)もいっぴく緊張の面持ちでいる中、武藤氏(同右)だけは泰然自若。過去にいくつもテレビやラジオへの出演経験があった武藤氏は、一番のベテランだったのです。



次回放送

6月22日です。お楽しみに。